

安寧



靖國神社参道風景

ホームページアドレス <http://www.himeji-gokoku.jp/>

兵庫縣姫路護國神社報
 「安寧」第十四号
 発行所 兵庫縣姫路護國神社
 〒六七〇〇三 姫路市本町一八
 電話〇七九一二四一〇八九六
 安寧(あんねい)：世の中が穏やかで平和なとこ

英靈の言乃葉

和歌に遺す

海軍大尉 石川 延雄 命

昭和二十年五月十四日
 滋賀県上空にて戦死
 法政大学
 岡山県勝田郡豊国村出身 二十三歳

身にあびる 歡呼の中に母一人
 旗をも振らず 涙ぬぐひ居り
 人混みに 笑みつゝ送る 妻よ子よ
 切なさすぎて 吾も笑みつゝ、
 面たれて 涙かくせる 吾が妻の
 心くみてぞ いざたち征かん
 帰らじと 思ふこころの 強ければ
 いよ、なつかし 故郷の山
 武夫の 妻にしあれば 夕空の
 鳥が渡れば 恋ふしきものを
 人前に わが見せざりし 涙なれば
 夜は思ふまま 泣きて明かしぬ



春季例大祭齋行

(五月二日午前十時三十分)



姫路市民合唱団 奉唱

晴天に恵まれた青空の下、新緑に包まれた境内にご遺族、崇敬者七百名余りの参列の中、厳肅に平成二十七年春季例大祭が斎行された。定刻宮司以下大川総代会長、三宅崇敬奉賛会長、西井兵庫県神社庁長、岸野兵庫県遺族会長らが社務所前より本殿に参進した。市民合唱団の先導で参列者全員でたからかに国歌君が代斉唱、お祓いのち神饌が奉られ淡交会、淡交会青年部の献茶奉仕のち静まった境内に宮司が祝詞奏上、大祭委員長、崇敬奉賛会長、兵庫県遺族会長の祭文と続いた。合唱奉納、

詩舞道連盟有志の詩舞の奉納ののうち代表百五十名余りが玉串を奉奠した。ご祭神とゆかり深い遺族、崇敬奉賛会会員、姫路駐屯地など各種団体の代表、またごころある地元国会、県会、市会議員が参列、平和を感謝し国の行く末を祈った。

崇敬奉賛会総会開催

(四月二十日午前十時)

発会式から数えて第六回目の総会が、規程により理事以上の方々の出席により開催された。まず、本殿で参拝、お神楽を奉納した。会場へ場所を移し会議が始まった。開会にあたり三宅知行会長は「崇敬奉賛会設立の目的はご英霊に感謝と報恩の誠を捧げることが第一義であります。その御遺徳を子々孫々にまで変わることなく顕彰し伝えていくことも、大きな使命のひとつでもあります。」と述べられ「社報の発行、戦士の証言、英霊顕彰の集い」など二十六年度の行事の概略を説明した。会議に移り二十六年年度の事業及び決算報告、また、二十七年年度の事業計画及び予算などが議題となり、いずれも全会一致で可決された。総代会長や、兵庫県遺族会長や参加者の意見発表もあり、参加者で会員増強に努力をすること誓い合い散会した。

平成二十六年年度 事業報告

兵庫縣姫路護國神社の創祀の意義を広く伝え、世代を超えて英霊に感謝と報恩の誠を捧げる祭祀の永続に尽くすため、奉賛会を設立した。今日の荒廃した精神状況に對しても、英霊の克己・献身の事跡とその精神を知らしめることが、生命の尊厳への認識と、父祖の世代への感謝の心を醸成し、我が国の伝統的道義・道徳心を取り戻す教育的役割を果たすものであると確信する。本年は、目的達成のため次の事業を行った。

- 一、総会を四月二十六日に執行した。
- 二、会員増強に努め、法人会員二十一口、個人会員百八十六口、終身会員六口、賛助会員十七口であった。
- 三、社報を二回(五月二日春大祭・十一月二日秋大祭)各五千部十一、十二号を発行した。
- 四、終戦記念日に英霊感謝の集いを執行し、「英霊の言乃葉」朗読、現職ラッパ手による演奏、解説、正午の黙祷などを実施し百五十名

の参加者を得た。

五、七月十九日に酷暑のキスカ島で戦われた安川毅氏を招き第二回「戦士の証言」講演会を執行し、百二十三名の参加者を得た。

六、一月十一日にシベリア強制抑留の後生還された荒木正則氏を招き第三回「戦士の証言」講演会を執行し、百六名の参加者を得た。

七、新年祈願祭を執行し五十四名の参加者を得てご皇室の弥栄と国家国民の安寧、会員の安泰を祈願した。

八、運営委員会を第二十七回から第三十七回まで十一回開催し、崇敬奉賛会の催しの企画、社報の編集会員増強の方策等を議論し実行した。

平成二十六年年度 決算報告

(収入の部) 平成26年4月1日～平成27年3月31日

予算項目	予算額	決算額	比較増減
繰越金	3,701,885	3,701,885	0
会費収入	2,800,000	2,158,000	▲ 642,000
雑収入	308,115	384,787	76,672
収入合計	6,810,000	6,244,672	▲ 565,328

(支出の部)

支出項目	予算額	決算額	比較増減
神社奉納金	1,000,000	500,000	▲ 500,000
事業費	1,700,000	1,365,780	▲ 334,220
事務費	100,000	100,000	0
会議費	460,000	318,731	▲ 141,269
雑費	50,000	45,406	▲ 4,594
予備費	300,000	0	▲ 300,000
次年度へ繰越金	3,200,000	3,914,755	714,755
支出合計	6,810,000	6,244,672	▲ 565,328

井上和彦氏 講演

五月三十一日終戦七十年特別企画の第一弾として行われた井上和彦氏の講演会「日本軍かく戦えり」がイーグレ姫路あいめっせホールで開催された。

会場は満席となり、大変賑わった。参加者も十代から八十代まで幅広く、市外、県外からも多くの人々が訪れた。

講演前に井上和彦氏は、正式参拝を行い、境内で終戦七十年談話を述べられた。

講演会は第一次大戦から大東亜戦争までアジアを巡るお話と幅広い内容で、二時間があつという間に過ぎた。

講演終了後も休みなく、来場者にサインや握手をして下さり、会場には長い行列が出来た。



参加者の声

(十代 男性)

●非常に感動しました。

●とても面白かった。

(二十代 男性)

●祖国を知る機会を作ることが出来て意義深い一日になった。

●本日、初めて知ったエピソードも多くあった。

(三十代 男性)

●九十分くらいかと思っていたら二時間以上もお話ししてくれて、ありがたく思いました。

●普段メディアでは知る事の出来ない旧日本軍の活躍を、面白おもしろく拝聴できて大変よかったです。

●学校で習わなかったいろんな近現代史や、東南アジア各国で今なお日本軍人が尊敬されていることを知る事ができて、非常に嬉しく思います。日本の教育を正常に戻したいと強く思います。

(三十代 女性)

●とても面白かったです。メディアでは聞けないお話でした。また、日本人である事を誇りに思いました。

●大東亜戦争について多少は勉強したつもりでしたが、今回は殆どが初めて聞く話でした。まだまだ勉強が足りないと感じました。多くの写真を使った大変わかりやすいお話が聞けて良かったです。

(四十代 男性)

●とても勉強になり、自分が日本人である事に改めて誇りを持ちました。ありがとうございました。

●アジアの諸国から日本国は敬意を持たれている事実が漸くわかりました。

●こういった催しに今後も参加したいです。(四十代 女性)

●日教組の施した極左教育によっていかに義務教育時代に、ネガティブな嘘の歴史をすりこまれたのか、ということが講演を拝聴しよくわかりました。本日も私から沢山のウソがはぎ取られた事は大変喜ばしく心が軽くなりました。

●知らない事も多く、大変有意義でした。日本の教育や報道をもっと何とかしたいと強く感じました。

●写真で説明してくれるので、わかりやすくまた、楽しくお話を聞かせてもらいました。日本国民が真実を知れるようにこれからもますますのご活躍を楽しみにしています。

(五十代 男性)

●知らない事が沢山ありました、とても勉強になりました。

●一人でも多く国を思い、国旗、国歌を敬愛し英霊の方々に感謝出来る人を増やして下さい。

●日本人として誇りを取り戻しました、ありがとうございました。

(五十代 女性)

●大変わかりやすく、ありがたい心のあるお話をありがとうございました。

●中学生に聞かせたくなる話でした。子供をつれてくれればよかったです。

●良かったです、愛国心は大切です。

(六十代 男性)

●第一次大戦の事がよく分かりました。日本人の精神がこれからも継続して行くことが重要だと感じました。

●終戦七十年に素晴らしい話を聞かせていただきありがとうございました。(六十代 女性)

●あつという間に時間が過ぎました、もつと日本を勉強しないとイケません、胸をはって生きていかないとイケないと思います。

●大変よかったです、知らない事が多くこれから勉強していきます。面白すぎて涙を流しながら聞きました。

(七十代 男性)

●大変素晴らしい企画でした。

●今年は終戦七十年、今こそ昭和二十年八月十五日の原点に立ち戻って考えるべきです。

●日本人としての誇りを感じます、未来の日本を変える努力をしたい、教育とマスコミをなんとかしよう。

(八十代 女性)

●今まで知らなかった事をあらためて知る事が出来た、演題に相応しい内容だった。スクリーンを使つての説明でわかりやすかった。

井上和彦終戦七十年談話

我が国はこれまで、栄光の近現代史を戦後の自虐史観によって醜聞の色に染められてまいりました。本来は、尊敬され称えられるべき先人の偉業というものも全て、悪であったというようなGHQによるウォーギルト・インフォメーション・プログラム(WGIP)で、全ての戦争責任を日本にという洗脳政策に日本人が七十年もの間浸かってきたのは大きな問題です。

しかし、今年が安倍政権というのは最高のチャンスであると思います。

私は、これまで世界を色々回ってきましたが、親日国家がどこを探すよりも、反日国家がどこを探す方が簡単であることがわかりました。中国と韓国だけが反日国家であつて、あと世界の全ての国が親日国家なのです。



拜殿前にて談話発表

日清・日露・第一次世界大戦、そして大東亜戦争を踏まえて多くの国々が日本の戦いは、近現代史における有色人種の孤軍奮闘の戦いとして、賞賛し感謝をしてきていてというのが現状であります。

安倍総理がインドネシアのアジア・アフリカ会議に参加されて、素晴らしい演説を行いました。それは、多くの国々に感謝する言葉が込められていました。

今まで意味不明な、ありもしない罪に対する謝罪をしてまいりましたが、今回、安倍総理はアジア、アフリカの国々が、戦後、国際社会に復帰するときに後押しをしてくれたということに、感謝を申し上げられました。

なぜ、アジアとアフリカの国々が日本に対して後押しをしたのか、それは日本に対して感謝しているからです。なぜ、日本に感謝しているかというと、日本の戦いにおいてアジア・アフリカの国々が欧米列強の植民地支配から脱して独立国になったからです。

この演説の中で、安倍総理はインドネシアのスカルノ大統領の言葉を引用されました。インドネシアは、三百五十年間オランダに植民地支配されていましたが、それを日本がジャワ攻略戦で僅か九日間で打ち破りました。この時に日本軍がオランダ軍に囚われていたスカルノ大統領とハッタ副大統領を解放し、後の大統領と副大統領になると宣言いたします。その後日本は僅か三年の間にインドネシア語の普及を行い、教育、医療をインドネシア人のために一生懸命、整備しました。三百五十年間何も出来なかつた事を、僅か三年間で日本がやった、その事に対して感謝しているスカルノ大統領とハッタ副大統領、そしてインドネシアの人々。安倍総理はその事をよくご存知なので、スカルノ大統領の名前を出され、言葉を引用されたのです。スカルノ大統領は昭和二十年八月十七日に、日本が大東亜戦争に負けた二日後に独立宣言を行います。この独立宣言の日時が〇五〇八一七と記されています。〇五というの実は皇紀が使われていて、皇紀二千六百五年八月十七日に独立したという意味なのです。

これらの事から、安倍総理のなさっていることは、日本の自虐史観からの脱却を目指しておられる事は明らかで、我々国民は、たった一回だけ戦争に負けただけで、くよくよしていないで、日清・日露、そして第一次世界大戦の戦勝国であったことを思い出すべきです。第一次世界大戦から百年の戦勝国記念日が二十八年に訪れます。この時に我が国は堂々と世界の秩序、責任のある国家として、当時の国連の常任理事国として世界をリードしていったのだと、あの栄光の時代をもう一度思い出すべきです。第一次世界大戦の戦勝国というのが、戦後レジュームからの脱却に繋がると思いますが。国民の意識が変わることで、日本は復活します。国民が意識を変えることで大きく我々は前進し、栄光の近現代史を取り戻せると思います。(平成二十七年五月三十一日) ※井上和彦総戦七十年談話の様子は、神社のHPで動画を配信しています。

大東亜戦争終結七十年の英霊感謝祭並びに英霊顕彰の集い

七十年前と同じように青空が広がる社頭で午前十時より兵庫県神社庁姫路支部の多数の神職のご奉仕の下、二百名に及ぶ遺族崇敬者が参列されている英霊感謝祭が厳かに斎行された。本年は陸上自衛隊姫路駐屯地からラッパ手に来ていただいて、ご英霊に捧げるラッパから始まった。泉宮司による祝詞奏上のあとには、靖国神社で奉納されている香淳皇后が昭和十三年に戦死者に対して詠まれた御歌お神楽「みたま慰の舞」が、奉納された。 やすらかに ねむれとぞおもふ 君のためいのちささげし ますらおのともご英霊よ安らかにという思いが伝わる舞でありました。続いて、ラッパ奉奏。現役自衛官からご英霊に対して、尊崇と感謝の音となって本殿に響き渡りました。 正午には、旧軍ラッパ手 林 好夫氏による心温まる吹奏のもと、ラジオ放送に合わせた黙祷。「陛下のお言葉」を拝聴。午後からは、英霊顕彰の集い。満席の参集殿では、自衛隊の制服を地方連絡部の三木所長より紹介していただき、いよいよ「英霊の言乃葉」が朗読される。今から飛び立つご英霊がそこに居られるかのような感動がある。魂は今なお生きていると感じさせら



ラッパ隊の奉納



みたま慰めの舞

れる。続いて、「激戦パラオの戦い」。天皇皇后両陛下の行幸啓されたパラオと日本の関係について、崇敬奉賛会の運営委員会でぜひ皆さんに知っていただきたいと企画されました。運営委員の前川英昭さんと曾田孝一郎さんが、姫路部隊と称された第三四六大隊の戦いの様子やパラオに散った先人たちの物語を語っていただいた。最後は、恒例ともなった護國神社音楽隊による「日本を唄う」。今年は男性歌手の金澤俊典さんも加わって、映画「男達の大和」の主題歌に映画の場面が浮かんで、思わず涙がこぼれそうになる。最後の「海ゆかば」の歌声は、大きな合唱となつていただきました。

盛りだくさんの終戦の日は、播磨・但馬のご英霊とともに、七十年の節目を霊友会手づくりのうどんやかき氷で賑やかに送ることができた。各方面からのご奉仕に心より感謝いたします。

- 巫女さんの舞の奉納は初めて見た、正露丸のラッパが食事ラッパというのを初めて知った。(二十代 男性)
- 自衛隊の生活はラッパで仕切られていることをはじめて知った。(二十代 男性)
- 戦後七十周年目にして 護國神社に自衛隊のラッパ、感慨深いものがあります。(五十代 女性)
- 自衛隊のラッパは思つかいが大変だなと思えました。(五十代 女性)
- 自衛隊を身近に感じられてとてもよかったです、来年も続けてほしい。(六十代 男性)
- 自衛隊員は礼儀正しく信頼できる姿が拝見できた。共に平和を希求していきたい。(七十代 男性)

参加者の声 〔英霊感謝祭〕



退下される神職

- 自衛隊のラッパはいつ聞いてもよいものです。(八十代 男性)
- 自衛隊の制服の説明は、記事の事が疑問だったのでよく解りました。面白く聞かせてもらいました。(六十代 男性)
- 英霊の言乃葉を聞いて、いろんな思いで最後を迎えられたのだなと思えました。母への思いは一番強いものがあると感じ、心が痛みました。(五十代 女性)
- パラオの中の戦いにもいくつもの話があることを改めて知りました。(六十代 女性)
- 沢山の人達が戦い、様々な思いの中で戦死されたのだと解りました。(三十代 女性)
- パラオの話聞いてもう一度、お参りしたいと思つた。(三十代 男性)
- パラオで戦つた兵隊さんを思う心が強いことに感動しました。(五十代 女性)
- パラオの話は涙が止まりませんでした。(五十代 女性)
- パラオを戦つた日本人の魂の力、国を思う強さに涙が出ました。(六十代 男性)
- パラオの話聞いて、戦争は百害あつて一利無しと思ひました、平和な国が何より幸せである。(七十代 女性)
- 「日本を唄う」が毎年の楽しみになつています。(五十代 女性)
- この催しが今後も継続することを願う。(七十代 男性)
- 一日有意義につとめさせていただきありがとうございました。来年も参加できるように老体にむち打つて日々を送りたいと思います。(七十代 男性)
- 午後からの「英霊顕彰の集い」には百数十名の方が参加されました。(七十代 男性)

〔英霊顕彰の集い〕

コラム 終戦七十年に思う 田中 佐代子

姉が七才 私は三才 昭和二十年四月九日ビルマにて父は戦死
母は平成二十六年十一月一日に亡くなりました。

私は、五年前に段差のない家で母の介護をしようと思つて家を新築しました。その時、母の部屋の片づけをした時、遺言状と書いた封書のある事は知つておりました。その中身は、姉も私も見た事はありません。

母が亡くなつて初めて開いて読みました。父の遺言状で、父が戦地に行く思い「再生軍ノ一員トシテ國家ノ為ニ働キマス事ハ何タル仕合ナル事デシヨウ」
父方、母方には「兄上様モ宜敷願フ」
母に託して行く思い「才前ノ仕事ハ擴クナル 一家ヲ保事シ子供養育スル一大責務ガアル 立派ニ生長サシテヤツテ呉レ」

父の遺言の通り、母は身を粉にして、立派に二人を育ててくださった事を感謝感謝でお別れました。

そして今年父の七十回忌の法要も済まし、そして姫路護國神社では御霊を鎮めていただき、守っていただけだと思つております。これからの余生を安堵して暮らしてまいりたいと思つています。

(たつの市) 合掌
(遺族)

シリーズ 英霊の戦場(五)

マリアナ沖海戦

戦闘期間 昭和十九年六月十九・二十日

戦後七十年の節目に当たり、後世に託したいご英霊の思いを代弁する心算で、海軍が惨敗した海戦を紹介いたします。敗因の戦訓については最後にまとめました。

元来、海軍は戦勝要因を最新兵器と訓練と精神力であると認識はしていたが、ハード面(航空機・艦艇等)のみを重視する思考に陥り、ソフト面(電子技術)の重要性に気が付いた時は時期を失い、米軍と大差をつけられた結果がこの海戦である。

戦後、海軍上層部の方々が戦略の欠落と技術・戦術開発の不振について厳しい反省を残している。

米軍は電子戦について先見性があった。豆粒大の真空管開発に巨額な予算を注ぎ込んだVT(電波近接) 信管や、高性能の機上無線機・レーダー・ソナー(対潜探知機)等の開発は、日本海軍に対し物量だけではなく技術力でも優った。

因みにVT用真空管は戦後米国の各種ミサイル及び宇宙ロケットの開発でも威力を発揮した。

若い方には現在の日本の電子技術は世界のトップレベルで在ることを当然と認識されていることと思う。戦前も電子工学分野では世界に引けを取らないレベルで在ったことを付記しておく。

海戦の経緯

ビアク島攻防戦(挿図参照)

戦闘期間 昭和十九年五月二十五日〜六月二十一日

ビアク島は、米軍の反攻経路の一つ南西太平洋(ニューギニア)比島(沖繩)上の西部ニューギニア西部に位置し、米軍はこの島を数日で占領し速やかに比島に上陸の足掛かりとすべく、五月二十七日一万二千名の兵力を上陸させた。米軍の不運は日本軍の守備兵力を過少見積もりしたうえ、歩兵第二百二十二連隊約四千名は、連隊長葛目直幸大佐率いる精強部隊で総兵力一万一千名であったこと。連隊長の陣頭指揮と勇戦敢闘により米軍は戦死を含む二千五百名の損害を受け、占領に一月を要する苦戦となった。大本営はこの反攻の経路をバラオクマリアナ諸島に向かうと予測し、「渾」作戦を発動、主力艦隊を派遣し主として航空攻撃による反撃を試みたが、十分な戦果を得られないまま損害も大きく膠着状態が続いた。米軍(指揮官マッカーサー)側も日本軍の本格的反撃の予測と対策に苦慮中であつたが、マリアナ沖海戦の勝利で一挙に本来の反攻作戦に着手した。

マリアナ沖海戦(挿図参照)

(米軍はフリッツピン沖海戦と呼称)

大本営及び海軍は索敵機を硫黄島・マリアナ諸島及び空母から頻繁に出撃させて米軍の艦隊を捕捉しようとしたが、偵察要員の練度不足やレーダーに捕捉され、迎撃機に撃墜されるなどで未帰還機が多く、正確な位置と艦隊規模が不明であつた。一方、米軍側は潜水艦で日本海軍の位置や規模を概ね捕捉していた。

大本営は米軍の反攻がマリアナかパラオか確定できず、米軍のサイパン上陸が主反攻正面(中部太平洋)と確認して初めて「あ」号作戦の発動が行われた。

六月十九日

日本海軍は乾坤一擲の作戦アウトレンジ戦法(米軍攻撃機の航続距離が短い欠点を利用)を採用した。幸い、米海軍もマリアナ諸島攻略支援の為、同諸島から離れられず、この戦

法は大勝利をもたらすと期待され実行された。しかし戦訓の項で記述する要因で惨敗を喫してしまつた。日本軍の戦果報告は過大であつたが実情は左記のとおりであつた。

第一波 六四機(ゼロ戦一四、戦爆四三、天山七)

損害 戦闘機に二五機、対空火力で一六機撃墜され

戦果 戦艦一隻小破、重巡一隻小破

第二波 一二八機(ゼロ戦四八、彗星五三、天山二七)

損害 戦闘機に約六五機、対空砲火で二〇機撃墜

戦果 空母一隻小火災、戦艦一隻に一機が体当たり

第三波 四九機(ゼロ戦一七、戦爆二五、天山七)

敵艦隊を発見できず

第四波 一八機(ゼロ戦四、戦爆一〇、天山四)

敵艦隊を発見できず 損害 未帰還機九機

第五波 四七機(ゼロ戦二六、艦爆九、天山三、彗星九)

損害 三二機は艦隊を発見できずガム島に着陸寸前二六機撃墜され、一〇機行方不明、三機が帰還

戦果 空母二隻の攻撃に成功したが損害を与えることが出来なかつた。

記 戦爆：ゼロ戦に爆弾装着、

天山：魚雷攻撃機

彗星・艦爆：急降下攻撃機

六月二十日

日本艦隊は航続距離の短い米空母艦載機が飛来する筈が無いと態勢を立て直し中、八〇機による攻撃を受け、空母一隻沈没、三隻中破、戦艦一隻、重巡一隻小破、航空機三〇機の損害を受けた。米軍は航続距離の限界海域で着水させ全搭乗員救助の戦法を採つたが、三〇名以上の未救助者や戦死者を出す結果となつた。この攻撃後、更に米潜水艦で空母二隻、油槽船二隻が撃沈された。

この戦いで日本海軍は空母主体の艦隊決戦が以後不可能と

なり、米軍の反攻速度は日本軍の予想を越えることとなった。日米損害（人的損害の資料は海戦として集計されていない）

日本軍

空母三隻 油槽船二隻 潜水艦一八隻 航空機約三〇〇機

米軍

戦艦二隻小破 重巡洋艦一隻小破 潜水艦二隻

航空機一〇機

姫路護国神社に祀られている英霊

ご英霊の戦没地が全てマリアナ諸島となつていますが、陸上戦闘での戦死者が概ね確定しており、確定できない方がマリアナ沖海戦での戦死者として推定。

海軍 一〇八柱 ご遺体は全てマリアナ沖海底に眠っております。

敗因の戦訓

一 作戦準備に十分な時間が持てなかつた。

多くのベテラン搭乗員と航空機を喪失し、その補充要員の練度向上が得られないまま作戦に参加せざるを得なかつた。米軍は短期養成できない搭乗員の防護・救助に重点を置いて制空権の確保を図つた。

二 困難な邀撃環境での作戦であつた。

米軍の来攻企図は比島の公算大として「あ」号作戦を準備していたが、敵情偵知しても確定できず、そのため戦力を分散していた。更に燃料と油槽船の不足は邀撃戦を西カロリン方面に選定せざるを得ず、結果としてマリアナ攻略は日本軍の意表を突く結果となつた。

三 彼我の兵器と術力の格差があつた。

米軍はリーダーと機上無線機の性能と運用により、組織的且つ余裕をもって日本軍機の邀撃に当たつた。又新鋭戦闘機

F6Fに対して練度不足搭乗員のゼロ戦は太刀打ちできなかった。VT信管による対空兵器の威力は攻撃機の接艦を許さなかつた。

米艦隊の潜水艦発見能力と対潜攻撃力に対し、日本潜水艦は乗組員の練度不足の上運用を誤り、多くの未帰艦を出した。米潜水艦は数隻で組織的な行動に徹し、多くの日本海軍艦艇を撃沈した。

四 基地航空部隊の兵力消耗と、「渾」作戦に従事した攻撃集団の集中が遅れて決戦に策応できなかつた。

三月、海軍の参謀長機がセブ島（比島）に不時着した際、ゲリラに機密書類を盗まれ、米軍は日本海軍の全貌を知ることとなった。この情報は特に日本軍基地航空隊の兵力削減に威力を発揮した。総数一五六〇機が米軍機の空襲による地上破壊等で七〇〇機に減殺、補給整備態勢も困窮し、

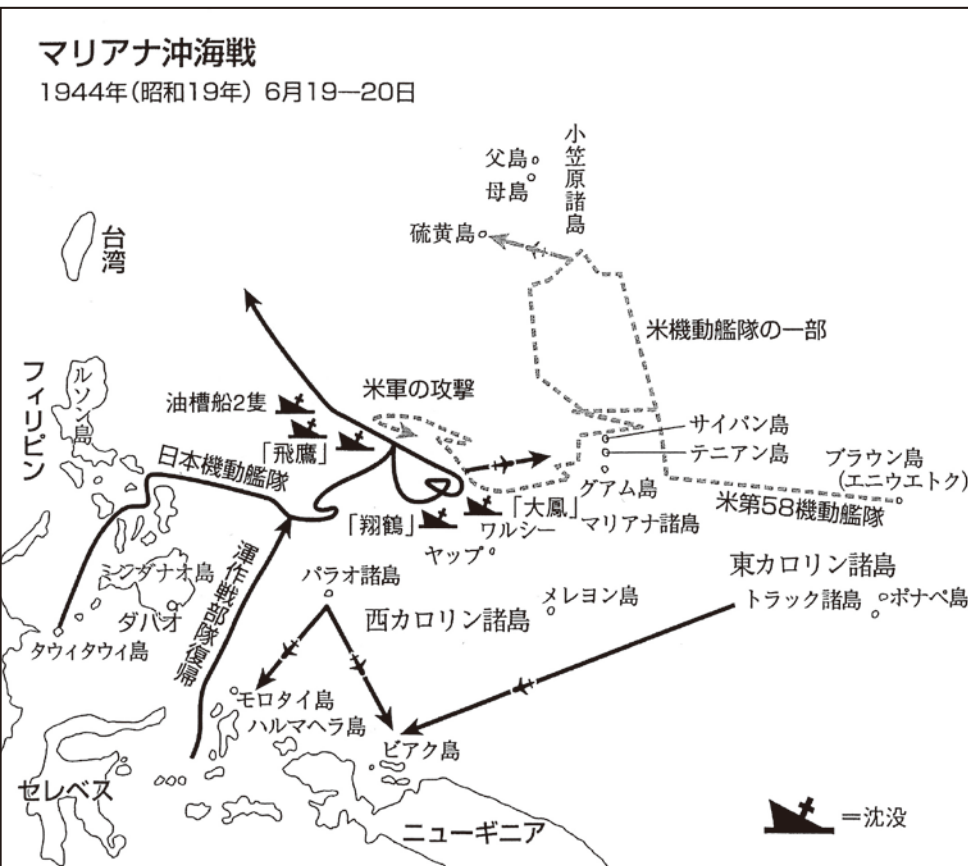
実稼働機は五〇〇機以下となり、「あ」号作戦支援に著しい支障が生じた。

戦史を読んで共通する

御英霊の想い

私達は自存自衛のために戦つた事を忘れないで下さい。この戦争が終結したら必ず

平和が訪れる」と信じて国難に命を捧げました。そして戦後七十年確かに平和が続きました。しかし、現在平和を脅かす安全保障環境が厳しくなっています。仕掛けられた戦争は受けるしかありません。仕掛けられない抑止力は国民の強い防衛意識と自衛力の保持です。世界から信頼される祖国の進路に迷つたら、是非神前に来て私達（英霊）に問うて下さい。



旧漢字・旧仮名遣いを学ぶ

(その三)

兵庫縣姫路護國神社崇敬奉賛会

常任理事 三 木 英 一

第三回として、昭和九年〜昭和十五年に読まれていた尋常小学校の修身書五年生用から、「忠君愛國」というタイトルで、吉田松陰のことが書かれた文を味わうことにする。

(出てくる旧漢字は、先にまとめておくことにする。)

國↓国 學↓学 釋↓釈 來↓来
盡↓尽 萬↓万 祖↓祖 體↓体
眞↓真 爐↓炉 圍↓圍 疊↓疊
讀↓読 神↓神 邊↓辺

忠君愛國

吉田松陰は長門の人であります。小さい時から、父母や叔父の教をよく守つて學問にはげみましたので、學業が大そう進みました。十一歳の時に、藩主の前に呼出されて、兵書の講釋をいひつけられました。大ぜいの家來のならんでゐるところ

で、見事に講釋をしたので、藩主を始め皆大そう感心しました。

松陰は、少年の頃、父から、我が國がりつばな國であることを教へられ、又先輩に外國の事情を聞いて、國のために盡くさうと志を立てました。それから、各地を旅行して、すぐれた人にあつて教をこひ、又内外の事情を知ることにつとめました。

其の頃アメリカ合衆國の軍艦が我が國に來て、交際を求め、通商をせまりました。しかし我が國は、久しい間、外國と交際をしなかつたので、どうしたらよいかと國中大さわぎをしました。松陰は、此の國難をすくつて國のために盡くさうと苦心しましたが、自分一人の力では出來ないことを知り、藩主にいろいろと意見書を出しました。其の一つを時の天皇が御覽になつたと聞いて、松陰は感泣しました。

松陰は、「我が國は萬世一系の天皇のお治めになる國であつて、我等は祖先以來、天皇の臣民である。天

皇は皇祖皇宗の大御心のまゝに臣民をいつくしませ給ひ、臣民は祖先の志をついで天皇に忠義を盡くして來た。天皇と臣民とは一體をなし、忠と孝とが一致してゐる。これが我が國の萬國にすぐれたところである。誰でも日本人と生まれた者は、我が國體がかやうに尊いことをわきまへるのが、最も大切なことである。」と信じ、先づ自分の郷里から始めて、全國の人に此の事を知らせて、忠君愛國の精神を振るひ起させようと決心しました。

二十八歳の時、郷里の松本村に松下村塾を開いて、眞心をこめて弟子たちを教へました。或時は、十歳ばかりの幼い弟子が新年におけるに來たのを喜び、親切に教へてやつてはげましました。又霜の深い夜、爐をとり圍んで、弟子たちと國事を語り明かしたこともありました。毎日ひるのおけいこがすむと、松陰は、弟子たちと「しよに、畠を耕したり、米をついたりしました。

後には、塾に來る者が次第にふえて、八疊の一室では狭くなりましたから、皆相談して一室建増さうといふことになり、先生も弟子も力を合はせ、柱を立て、壁をぬつて、十疊半の一室を作り上げました。

かやうにして松陰は、弟子たちと寝起きや食事を共にして、書物を讀み、意見をたゝかはせ、熱心に教へ導きました。さうして、「松本村は、片のなかではあるが、此の塾からきつと御國の柱となるやうな忠義な人が出る。」と言つて弟子たちをほげました。

松陰は、三十歳でなくなりましたが、國體を明らかにし、皇室を尊び、我が國を盛にしようとした其の精神は、弟子たちとうけつがれ、果して其の中から、りつばな人物が出て、御國のために盡くしました。

身はたとひ

武蔵の野邊に朽ちぬとも

留め置かまし大和魂



「戦争を知らない子供たちとして」

兵庫縣姫路護國神社崇敬會

會員 村 瀬 利 浩

私は昭和二十八年生まれで、所謂「戦争を知らない子供たち」として育った。従って戦後七十年にあたりというような事を書く資格がないので、せめて父母より聞いたことを伝えようと思う。父は大正十一年生まれ、母は昭和四年生まれなので、まさしく戦争世代である。その父も既に他界し、また生前も戦中の事はあまり語らなかつたが、今思えば父が多くを語らなかつたことが却って、父の気持ちを伝えているように思えるのである。

その父は昭和十八年に、雨の神宮から学徒出陣し、海軍飛行予備学生となつたが、偶々地上勤務となつたが故に、今の私が存在する訳である。当時の話は、鹿屋基地から出撃する航空隊員を「棒振れー」で見送つたこと、特に自分が士官であつたために、「若いやつをようけ死なせた」ということぐらいいし語らなかつた。当然自分も生きて帰るつもりはなかつたと言っていたが、中学校を出

たばかりの、自分より若い予科練航空兵を毎日の様に送り出した経験は、口に出したくないものであり、生涯を通じて心の重荷だつたようだ。

父は少なくとも当時の士官以上には、日本が負けることは公然の秘密のようなものだつたが、任務はほぼ平常通り遂行されていたと言つていいし、航空隊では食事その他の配給物もさほど逼迫した状況ではなく、窮乏を強いられていた一般の国民生活とは、違つていたとも言つていい。ただ時が来れば、隊員たちは淡々と出撃して行つたことだつた。

われわれが見聞きする、南方や印支方面での悲惨な戦闘状況ではなかつたようだが、終戦直前には米艦載機が頻繁に来襲し、やられる一方であつたそうだ。その時点では、迎撃するに飛行機もなく、とにかく防空壕へ逃げ込むのみの惨めなものだつたそうだ。

戦後も一段落した昭和四十年代頃からは同期会、特に高野山での慰霊

祭には諸事都合をつけて参加していた。父の生前は、同期会だからと私もあまり関心を持つていなかったが、亡くなつた後に父宛に慰霊祭の案内が届き、ご存命の方々また諸霊に父の死亡をご報告したいと思ひ慰霊祭に参加した。

其処でご高齢を押しして参列される方々にお会いし、お話を聞きするにおよび父や当時の隊員が、誠に淡々とした気持ちで任務に当たつていたということを実感した。そこには特攻が強制であつたとか、進んで志願していったという話は出てこない。ただただ任務を遂行するのみであつたということである。

母は大阪生まれで、女学校時代に大阪大空襲を経験し、一面の火の海を命からがら逃げたことを、かつてはよく話していたが、最近では戦時中の話をする事も少なくなつた。空襲で焼かれた沢山の死体の上を踏み越えていったという母の話が、長い間私の心に残つたままであつた。昭和三十年代半ばまで大阪環状線の大阪城近辺に残つていた、砲兵工廠の廃墟付近を電車で通過する度に、空襲と焼けた死体の話がフィードバックしてきたものだつた。当時、電車

(現在の漢字・仮名の表記)

- ①(名) 教え (動) 教え ②促音は小さく書き表す ↓ 守つて ③呼び出される
④いいつけ ⑤いる ⑥尽くそう ⑦こい ⑧給い ⑨かよう ⑩わきまえる
⑪先ず ⑫振るい ⑬一しよ ⑭増そう ⑮いいう ⑯合わせ ⑰たたかわせ
⑱そう ⑲いなか田舎 ⑳ような ㉑盛んに ㉒たとい

がその付近を通過する時には車内が沈んだ感じになり、話し声も少なくなつて、子供心にも重苦しい雰囲気を感じたものだつた。あの殺伐とした風景、雰囲気は今でも思い出すことがある。

今振り返れば、自分は確かに「戦争を知らない子供たち」の一人だが、父母の話と周囲に残つた戦争の爪跡の風景が交じり合い、多少は戦争の状況を知らされていふと思う。時とともに父母の世代は幽明界を異にする事となるが、先人の記憶を次世代に繋いでいくことが、後世の子孫に残す知恵となることを願いたい。

(姫路経営者協会専務理事)

日誌抄

二十七年四月

二十七年九月

平成二十七年

四月 六日

ダスキン祈願祭

崇敬奉賛会会長面談出向

崇敬奉賛会運営委員会

姫路遺族会役員会

県神道青年会会長新任挨拶来社

隊友会総会

三和衛市会議員候補出陣式出向

姫路遺族会総会

春季大祭

大塩天満宮国恩祭出向

上郡高峰神社祭典出向

ビルマ会慰霊祭

崇敬奉賛会運営委員会

兵庫県神社庁西播地区打合せ会

日本会議役員会

姫路郷友会総会

巫女二名靖國神社神楽研修出向

宮司神社本庁評議員会出向

明治神宮神社本庁

神河町慰霊祭

兵庫県神社庁姫路支部

サイパン慰霊祭出向

日本会議講演会 宮司講演明治維新

崇敬奉賛会主催

井上和彦講演会三百名参加

兵庫県神社庁姫路支部お田植え祭(打越)

崇敬奉賛会運営委員会

大川神社敬神婦人会参拝

神宮評議員会出向(伊勢)

兵庫県神社庁役員会

六月二十日

六月二十一日

六月三十日

七月 二日

七月 三日

七月 六日

七月 八日

七月 九日

七月十二日

七月十五日

七月十六日

七月二十一日

七月二十五日

七月二十八日

七月三十一日

八月 六日

八月 八日

八月 九日

八月十五日

八月二十五日

九月 一日

九月 二日

九月 三日

九月 七日

九月十日

九月十三日

九月十四日

九月十五日

九月二十一日

九月二十五日

九月二十八日

九月三十日

霊友会清掃活動 正式参拝

初任神職研修会宮司講師出向

大祓式

姫路調停協会役員会姫路簡易裁判所

神道政治連盟代議員会・兵庫県神社庁

兵庫県神社庁合同協議会湊川神社

前庁長慰労会生田神社

班幣式 於靖國神社

大歳神社毛利出向午前

月次祭 運営委員会参列後瑞穂で会合

調停相談会

近畿護國神社会正式参拝

日本会議講座③日露戦争

神社監査及び役員会開催

神社総代会開催

兵庫県神社庁姫路支部現任研修(総社)

城巽老人会清掃奉仕

英霊にこたえる会西播ブロック正式参拝

英霊感謝祭及び英霊顕彰の集い

兵庫県神社庁役員会出向

兵庫県神社庁姫路支部役員会・定例会

スローフードな縁日祈願祭

兵庫県神社関係者大会出向

全国護國神社会幹事会靖國神社出向

全国神社総代会出向

滋賀県びわこホール

伊丹駐屯地五十五周年記念式典参列

観音寺市遺族会参拝

兵庫県神社庁宝塚支部参拝

西宮神社例祭参列

兵庫県神社庁役員会

藤井寺遺族会参拝

英霊にこたえる会近畿ブロック正式参拝

終戦七十年「時代は変われど祈りは続く」

今年には終戦七十年の年です。共に、英霊に感謝の気持ちを捧げ、英霊の心を感じましよう。

十二月二日(月) 大東亜戦争終結七十年臨時大祭

